

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北九州市立 市丸小学校 (福岡県) (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒803-0183

福岡県北九州市小倉南区大字市丸472-2

E-mail ichimaru-e@kita9.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 43名 女子 38名 合計 81名
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「地域の人・もの・こととのかかわりを通して主体的に学ぶ環境教育」を活動テーマとして、ESDをその具現化を図るための学び方と捉え、ESDの実践を通して故郷「市丸」への誇り(愛着心)をもち、環境の保全や創造に主体的に取り組む子どもの育成を目標とした。

具体的には、生活科・総合的な学習の時間において、以下のような体験活動を全学年で実施した。

① 1年生・2年生

生活科単元で1年生は「きれいにさいてね」、2年生は「大きくなあれ わたしの野さい」の学習において栽培活動の体験が位置付けられている。本校ではこの学習に関連付けて、1・2年生合同で年間を通じ、花の苗、野菜(トマト、キュウリ、ナス、トウモロコシ、落花生、ジャガイモ、ブロッコリー 等々)の栽培、収穫の体験活動を実施した。児童自らの手で花や野菜を育て、その生長に立ち会うことから植物への愛着心を育てた。

② 3年生

総合的な学習の時間に「へんしん小麦大作戦」の単元を位置付け、児童たちが2年生の時に蒔いた小麦を収穫し、脱穀～脱稈を体験。できた小麦粉でクッキーを作って食した。収穫の喜びを味わうとともに低学年時からの栽培活動を振り返り、農家が多い本校区の特色やよさ、それらが農業を営む暮らしと深い関係があることに気付くようにした。

③ **4年生**

総合的な学習の時間に「守ろう！わたしたちのビオトープ」の単元を位置付け、校内ビオトープの清掃、植物・生物の観察活動を通して、環境保全の大切さについて考えた。NPO法人「アサザ基金」（茨城県）のプロジェクト学習を活用しながら課題解決学習を展開し、その成果を下級生に向けて発信した。

④ **5年生**

総合的な学習の時間に「おいしい米づくりにチャレンジ」の単元を位置付け、地域の農家の方にも支援・指導を受けながら、本校敷地内のミニ田んぼで稲作を体験した。種粃で苗床作りから始め、田植え～稲刈り～脱穀まで行い、できた米は地域の農家の方の米と炊き比べて味わった。農家の方との交流を通して、技術的な工夫・努力だけでなく、先祖から受け継いだ土地と生活を守っていききたいという思いにふれたことが、児童にとって貴重な出会いになった。

⑤ **6年生**

総合的な学習の時間に「守り育てよう！市丸の宝ガシャモク」の単元を位置付け、国内で本校区にのみ生息する絶滅危惧種指定の水草の飼育、観察、実験を継続した。今年で11年目となる本学習は、昨年度敷地内に「ミニお糸池」を作り種の収穫に成功。今年度は発芽まで成功させたが、生長～開花には至らなかった。本学習もNPO法人「アサザ基金」（茨城県）のプロジェクト学習を活用した。

① の写真（キャプション）



② の写真（キャプション）



③ の写真（キャプション）



⑤ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)



(2) 活動の詳細

② 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

シンキングツール ～考えることを教えたい～
著者：黒上 晴夫／小島 亜華里／秦山 裕

- ③ ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

○指導計画については、低学年を生活科、中・高学年を総合的な学習の時間に以下の配時で位置付けている。

1年／生活科 10時間

2年／生活科 11時間

3年／総合的な学習の時間 15時間

4年／総合的な学習の時間 21時間

5年／総合的な学習の時間 23時間

6年／総合的な学習の時間 27時間

○指導方法の工夫改善については、以下の3点の着眼を設定して実践した。

【視点1】地域の人・もの・ことに視点を当てた教材の見直し・開発と主体的に学ぶための学習展開の工夫

【視点2】自ら考え、自ら解決したことを認識（自覚）させ、次の活動目標・課題をつくる振り返り（自己評価）の工夫

【視点3】主体的な学びを促す指導・支援の工夫

- ④ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校の研究主題「地域の人・もの・こととのかかわりを通して主体的に学ぶ環境教育」の中に年間カリキュラムとして位置付け、各学級（各教員）が公開授業、研究協議を実施した。例年、研究実践をまとめた紀要を作成し、どの教員がどの学年（学級）を担当しても同様の学習が展開・継続できるように努めた。

- ⑤ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

評価方法は主にアンケート調査で、児童は毎学期、保護者は年間2回、教職員は毎学期実施した。その成果としては、地域の人・もの・ことに直接体験として触れ合うことで、学習課題を自らのものと捉え、生き生きと活動する児童の姿が見られた。また、思考ツールの活用も進められ追求思考の焦点化の研究も進められた。

しかし、評価の在り方や系統だった思考スキルの育成面で検討の余地があり、今後も継続研究に取り組む必要がある。

- ⑥ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本年度、学校外・学校間の発信活動は実施できなかった。

- ⑦ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

学校外の団体協働・交流・ネットワーク形成は実施できなかった。

- ⑧ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

他のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成は実施できなかった。

- ⑨ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

直接体験とその継続、出会い直し等を重視することで、学習課題を自らのものと捉え、生き生きと活動する児童の姿が見られた。
また、思考ツールの活用も進められ追求思考の焦点化も向上した。

- (3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

平成29年度の活動を基盤に、同一カリキュラムで実施する。
平成30年度については、3学年と4学年の計画を入れ替える予定。